

SRI の新潮流、インパクトインベストメント

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

SRI の業界において、欧米を中心にインパクトインベストメント (Impact Investment) という新たなトレンドが出てきています。GIIN¹によると、インパクトインベストメントは SRI の一つですが、従来のスクリーニング (特にネガティブスクリーニング) の手法を通じた投資とは一線を画し、財務的な収益性を確保しつつ、社会・環境問題に対してより直接的で即効性のある解決を図るものです。

具体的には、マイクロファイナンスやコミュニティ開発金融、クリーンテクノロジーファンドなどが含まれます。個別の取り組み自体は特に新しいものではありませんが、地域や分野が多岐にわたるこれらの活動を一つの領域と見なし、投資家が網羅的な情報を得て運用先を選ぶことができる基盤の構築が進んでいます。つまりもっと直接的なインパクトを社会と環境に与える投資手法といえるでしょう。その規模は今後拡大していくことが予想されており、要因としては、世界の超富裕層が資産運用にあたってより多様なアプローチを模索していること、経済格差の拡大や気候変動などの問題が顕在化する中でより効果的な解決策が求められていること、収益実績も経年で蓄積されてきていることなどが挙げられます。

ファミリー・フレンドリーの評価にも関連する雇用の創出や教育支援といった分野は、インパクトインベストメントでも注目されるものの一つです。バングラデシュを拠点とする NGO の BRAC は、フェアトレードや製塩業などの事業を展開して地域の産業を支援するとともに、現地での雇用を生み出し、またそこで得られた収益を教育プログラム等の財源に充てており、インパクトインベストメントの担い手とされています。

企業の CSR 活動を後押しする効果や、事業活動に対するモニタリング機能等を考慮すると、スクリーニング手法による証券市場を通じた投資も引き続き重要であるといえるでしょう。ただ、途上国における人口増加や貧富の差の拡大といった問題の顕在化と、こうした問題に関心を持つ投資家の増加という、インパクトインベストメントを押し上げる背景を勘案すると、今後企業は社内だけでなく社外、特に途上国での人材育成や現地の雇用創出につながる取り組み、NGO との協働などについて、より注目される機会が増えそうです。

※参考資料: Monitor Institute 2009 年 1 月「INVESTING FOR Social & Environmental IMPACT」

¹ Global Impact Investing Network: NY 拠点の NPO 団体で、ロックフェラー財団のサポートのもと 2009 年に発足。インパクトインベストメントに関する情報収集・発信、投資家のネットワーキング、教育活動などを展開している。